

**第2回（2002年度）佐治敬三賞は  
「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」に決定**

財団法人 サントリー音楽財団（理事長・堤剛）は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」の第2回（2002年度）受賞公演を「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」に決定しました。

●選考経過

1. 応募のあった2002年実施公演について2003年1月13日（月・祝）東京・丸の内内の東京會館において、選考委員9名により第一次選考を行った。
2. 引き続き3月18日（火）東京・千代田区紀尾井町のホテル・ニューオータニにおいて最終選考会を開催、選考委員9名により慎重な審議の結果、第2回（2002年度）佐治敬三賞に「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」が選定され、同日理事会において正式に決定された。

●賞金は200万円。

●選考委員は下記の9氏。

礒山 雅・岩井宏之・岡部真一郎・白石美雪・武田明倫  
丹羽正明・根岸一美・船山 隆・三宅幸夫

（敬称略・50音順）

## <贈賞理由>

アンサンブル・ノマドは、ギタリストで現代曲に精通している佐藤紀雄を中心に、若手の意欲あふれる演奏家たちが集まったグループである。1997年結成以来、毎年、内外の現代作品を独自の視点で切り取り、おもしろく、しかも大いに触発されるコンサートを開いてきた。メンバーには現代曲ばかりでなく、古典にも通じた実力派が揃っているが、とくに即興的なパフォーマンスを可能にするような柔軟な感性をもった人が多く、生き生きとした演奏シーンが繰り広げられる。佐藤の優れた企画も、こうしたメンバーがあって初めて実現可能になる。

2002年度第1回の定期演奏会はそのようなアンサンブル・ノマドの個性がよく現れたコンサートだった。題して「ケージとメシアンの間で交わす空想の往復書簡」。ちょうど没後10年を迎えたジョン・ケージとオリヴィエ・メシアンの音楽を交互に演奏していくのだが、ときには作品の中の1曲1曲をばらばらに解体して組み合わせたり、「ノマド版」とでも言うべき、独自の楽器編成に編曲したり、東京オペラシティ・リサイタルホールの空間を自在に生かして、遊び心たっぷりの演出を楽しませた。

既成の枠を抜け出して自分の音楽を極めた作曲家たちだからこそ、こんな粋なコンサートがあってもいい。暗転したなか、演奏者たちがおのおの水音を響かせたポエティックな幕切れも清々しい印象を残した。企画、演奏ともに第2回佐治敬三賞にふさわしいコンサートとして高く評価される。

## <公演概要>

名称：「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」

『ケージ⇔メシアン』

ケージとメシアンの間で交わす自然と宇宙に関する空想の往復書簡

日時：2002年9月17日（火） 19：00開演

会場：東京オペラシティ・リサイタルホール

曲目：メシアン／コウライウグイス《鳥のカタログ》より

ケージ／竜安寺－詩経による

メシアン／I．水晶の礼拝《時の終わりのための四重奏曲》より

ケージ／5

メシアン／クロサバクヒタキ《鳥のカタログ》より

ケージ／II．トリオ《アモーレス》より

メシアン／VI．7つのラッパのための狂乱の踊り

《時の終わりのための四重奏曲》より

ケージ／想像の風景No.5

ケージ／18回目の春を迎えたすばらしい未亡人

メシアン／聖母のまなざし《みどり児イエスにそそぐ20の眼差し》より  
出演：アンサンブル・ノマド [木ノ脇道元（フルート）、菊地秀夫（クラリネット）、  
野口千代光（ヴァイオリン）、甲斐史子（ヴァイオリン／ヴィオラ）、  
菊地知也（チェロ）、山本修（ダブルベース）、宮本典子（パーカッション）、  
稲垣聡（ピアノ）、中川賢一（ピアノ／指揮）、佐藤紀雄（ギター／指揮）]

## 第2回佐治敬三賞 受賞の言葉

佐藤 紀雄（アンサンブル・ノマド音楽監督）

2002年はアンサンブル・ノマドを設立して6年目になりますがその活動の中心は、年4回の定期演奏会であります。

私達がこれらのシリーズに於いて演奏する曲目は、たとえ十全では無くとも、作品の意図が理解でき、そのうえ共感をもって演奏できるものに限ってきました。

もし、それらの作品がある程度理解でき、また共感を持てるのならば、現代作品の紹介というレベルから一歩すすんで、創造的にコンサートを制作することも可能ではないだろうか、と言う考えのもとにやってきました。

この度の受賞対象となったプログラムでは、20世紀後半の芸術音楽を方向づけた二人の作曲家に対する、臆病ながらも、アンサンブル・ノマドによるひとつの解釈の表現でした。

新しい音楽を生み出す情熱に対して、変わらぬ理解と愛情によって、力強い励ましを与え続けて来られた方の名を冠した賞を頂けたことを心より光栄に思います。

(ご参考)

### 佐治敬三賞について

(財) サントリー音楽財団(理事長・堤剛)は、故・佐治敬三(元サントリー株式会社社長、元サントリー音楽財団理事長)の功績を記念して、2001年度(平成13年度)から「佐治敬三賞」を創設しました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定されました。

この賞は、毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は200万円。

故・佐治敬三は、早くから文化事業への支援に力を入れ、特に音楽界においては鳥井音楽財団(現サントリー音楽財団)を設立、サントリー音楽賞をはじめとするわが国の洋楽の振興を目的とした諸事業のほか、東京初のコンサート専用ホール「サントリーホール」の建設・運営などを行ってきました。

1999年11月3日に急逝した佐治の遺族から“音楽界のために役立ててほしい”として遺産の一部が寄付されたことから、財団で検討した結果、「佐治敬三賞」の創設にいたりました。

賞の詳細は別紙のとおりです。

— 記 —

1. 名 称 「佐治敬三賞」
2. 選考対象 毎年1月1日から12月31日の間に国内で実施された日本人を主体とする音楽公演で応募のあったものが対象になります。清新、独自、冒険の意欲、あるいは若々しさに満ちた企画であり、かつ公演成果の水準の高いすぐれたものを選定します。
3. 選考方法 応募のあった公演について審査を行い、翌年3月の佐治敬三賞最終選考会で受賞公演を選定、発表します。
4. 選考委員 選考はサントリー音楽賞選考委員により行われます。
5. 賞 賞状、賞金200万円
6. お問い合わせ先 サントリー音楽財団 〒107-8430 東京都港区元赤坂1-2-3  
電 話 (03) 3589-3694  
F A X (03) 3589-5344  
<http://www.suntory.co.jp/culture/smf/>

第3回（2003年度）「佐治敬三賞」応募について

2003年1～6月実施公演の応募受付は終了しました。

2003年7～12月実施公演の応募方法は以下のとおりです。

- ・対象公演 2003年（平成15年）6月1日から12月31日の間に国内で実施される音楽を主体とする公演。
- ・応募方法 所定の応募用紙にて応募いただきます。公演の記録映像、録音、印刷物などがある場合は資料として提出いただく場合があります。応募要項・用紙は、住所・氏名・電話番号を明記の上、郵送またはFAXにてサントリー音楽財団までご請求下さい。また財団ホームページからもダウンロードできます。
- ・応募期間 2003年4月1日から5月31日

以 上